

夢アイデア:私の「美しい里づくり構想」

今、地方創生の鍵として田園回帰が唱えられている。しかし、田園回帰を進めるには地方が魅力的で美しくなければならない。20世紀初頭、エベネザー・ハワードは都市と農村の結婚を目指し田園都市構想（注1）を提唱した。21世紀の今、私は、美しい里づくり構想を提案し、田園回帰を推進したいと思う。

注1:環境悪化と貧困の拡大を憂い、都市の社会的経済的利点と農村の優れた環境の融合を目指し、「明日の田園都市」を提唱した。

夢の背景 - 地方と都市の事情

1. 農山村の事情 過疎化による荒廃した未利用地や空き家等の増加

今、地方は過疎化が著しく、様々な問題を抱えている。特に農山村では、未利用農林地や空き家が増えている。これらが不良資産となり、管理も行き届かず荒れ放題。

これまで維持管理を担ってきた土地所有者（地主）の高齢化、後継者不在、或は経済力の相対的低下等に伴い地主一人では、維持管理が困難となっている。しかし、居住環境等への悪影響も大きく、住民間の紛争の種ともなっている。

こういった地方の現状からも田園回帰への期待は大きい。

2. 都市の事情 行き過ぎた都市化社会の是正 -

しかし、都市には都市の問題がある。田園回帰を単なる地方への移住・定住と捉えるべきでなく、行き過ぎた都市化社会の是正、将来に向けた多様性の追求と考えるべき。

19世紀末から20世紀初頭は、産業革命で都市化が急速に進展。スラムなどの劣悪な環境を改善し、良好な居住環境の形成が急務であった。それがハワードの田園都市構想の背景であり、近代都市計画に多大な影響を与える。

今、21世紀は、資本主義のもと経済が高度化、グローバル化する中で様々な格差が拡大。都市化の進展に伴い人と人のつながりが希薄化し、明らかに社会的な歪が出ている。

しかも人口問題のみならず、自然環境、学校教育など多方面に及ぶ。決して個々の問題ではなく、社会システムの構造的な問題である。

地球規模では、南北問題、特に改善されないアフリカの貧困。飽食と飢餓。EUではギリシャ問題。これらの国際問題と、国内問題としての集中と過疎、限界集落。更に若い世代のニート、ワーキングプア、高齢者の下流老人・老後破綻などの根本原因は同じではないか。現社会が抱えるシステムの欠陥ではないか。

これらが問題提起の背景である。すなわち田園回帰を、単に地方への人口移動と捉える

のではなく、行き過ぎた都市化の是正と考えたい。その模索の一つが、田園回帰と捉えたい。

夢の方向：新たな国の形

1. 美しい里づくり構想

田園回帰をテコに、次のような日本的な美しい里づくりを進める。

1. 都市化の是正に向けた多様な田園回帰

過度の都市集中を是正する「柔らかな**田園回帰**・地方定住」を目指す。

Uターンはもちろん、Jターン、Iターンを歓迎する。

終住定住はもちろん、元気なうちだけの田舎暮らしも歓迎。

身勝手な一時的定住、都市との二重生活。なんでも良い、形態は問わない。

地方を元気にする、よくするという気持があれば、

地方に住みたい人、関心のある方すべてを歓迎し、移住を支援し、応援する。

2. 温かい里、新しい共同体の創出

地縁・血縁の崩壊、希薄化する社会の中で「緩く優しく**温かい村・里コミュニティ**」を創る。

地方、特に田舎は、都市に比べて付き合いの濃い閉鎖的な村社会である。都市から田舎への移住、それは、ある一面、自由を放棄し、村社会（共同体）の秩序を受容れることを意味する。

それが、田園回帰の必要条件である。しかし、これが意外と都市住民にとっては重い条件である。一方、地方からみると、それは必要条件であり、十分条件ではない。村の行事や慣習に従い、村社会（共同体）に積極的に溶け込むことを期待する。

そこに田園回帰の困難さ、運動として持続できない原因がある、と思う。そこで、都市、農村双方の折り合いが必要となる。

しかし、そうではなく、新しい調和、秩序をもつコミュニティを共に創っていく。都市と農村の問題を共に是正する。すなわち行き過ぎた格差の是正や希薄化した絆を取り戻す。村社会の悪いところは改善する。都市と農村のよい所を取り入れて新しい村・里の形をつくる。その姿勢が必要と考える。

したがって、目指す村・里は

垣根の敷居は低くし、出入り自由、個人を束縛しない。

個人の多様性を排除しない、尊重する。

しかし、好ましい村の、里（コミュニティ）の秩序をともに創る。

3. 環境にやさしい循環型経済圏

経済のグローバル化、ボーダレス化の中で、ほどよい**地域循環型の経済**（「里山資本主義」）を創る。少なくとも、過疎地（後進国）の自助・自衛策として、或は多様な選択肢として残し、創る。

そんなに頑張らなくていいよ、ほどほどで。

そんなに儲けなくてもいいよ、人のため、地域のためになっていけば、

そして君が、人が、みんなが楽しければ。

20世紀の社会は、自由と多様性を尊重、保障する社会を構築してきた。

しかし、世紀末には、「ただし自己責任で」と言い、自己選択自己責任論が強まり、特に経済的な縛りが強まってきた。その結果、理念はともかく現実には、自由が制限され、多様性は排除・軽視され、画一化が進む傾向がみられる。それを嫌い自由と多様性を追求すると、しばしば経済的な困窮に陥る。企業等にとっても、油断すればM&Aなどで崩壊する。人・社員を救うためと言いつつ、ある種の犠牲を強いる。

今、我々の社会は、その悪循環にあるように感じる。右肩上がりの高度経済成長期は良かった。しかし、成熟期に入った日本、先進国がリードする国際社会の今は、負のスパイダルが強まっているように感じる。

ポストモダン、ポスト資本主義の声はある。しかし、未だ社会システムの代替案は見出しえていない。

しかし、今、社会が抱えるシステム上の欠陥、歪は、肌身に感じられる。対処療法でしかないのかも知れないが、これまでの都市化の流れとは違う、かつて日本の村（里）、流域が持っていた節度のある自律的な生活・経済圏の形成を、「田園回帰」をテコ・運動として目指す。

2. 流域生活圏を基本とした「都市と農村の結婚(融合と共生)」

東京一極集中が著しく、国土の均等ある発展が望ましい。また、ハワードが提唱した「都市と農村の結婚（都市的なものと田園的なものの融合）」を理想とした田園都市構想の実現を、我が国の歴史文化及び実態に即して考えると、流域生活圏を重視した「国（里）の形（美しい里づくり構想）」を模索し、次の3つを目標に田園回帰を進めるべきである。

自律ある流域生活圏の目標

① まち：自律ある美しい流域生活圏の形成

流域圏らしい「都市と農山村の結婚」（環境と都市的利便性の追求、融合）

各地域、各里・集落にあった「都市と農山村の結婚」

②ひと：流域内の相互連携と共助で流域生活圏の形成

流域内の中核都市、町中心、里（集落）の連携と役割分担

- ③しごと：職住近接を基本とする地方の自立と循環型流域経済圏の形成
地場企業相互の協力連携と再生
都市の人材、ノウハウ、資金の活用

例えば、私の郷里は奥豊後。

大野川が流れ、下流に母都市（中核都市）・大分市がある。上流に奥豊後（豊後大野市、竹田市）があり、流域の人口流出は著しいが、古くから経済的文化的なつながりが強く、今も豊かな流域生活圏を形成している。村おこし、町おこし活動も活発で、それをつなぐネットワーク活動もある。

これらの実態等を踏まえて、美しい里づくりを推進し、流域の均等ある発展を目指し、自律ある流域生活圏を形成する。

流域生活圏

下流・母都市 — 中流・小都市（町中心） — 上流・農山村（里、集落）

都市化社会の奥豊後

奥豊後 → 大分市 → 東京などの大都市

田園回帰（逆都市化）社会の奥豊後

東京などの大都市 → 大分市 → 奥豊後

夢の実現のために

美しい里づくり構想を進めるために次の3つの体制を組み、その実現に資する。

- 土地管理組合 — 美しい里づくりの推進母体
- (株)夢代理店 — 土地管理組合のサポート会社
- NPO)美しい里づくり協会—支援組織

<設立趣旨、考えのポイント>

官民及び地域が協働して地方の環境保全に取り組む。

地域課題の解決など動機を活かした推進主体を組織化する。

仕事を創り地元企業をつなぎ経済的な自立を図る。

都市の人材、ノウハウ、資金を活用する。

1. 土地管理組合

田園回帰を推進し夢を実現するために、コミュニティ単位の土地管理組合を結成

し、美しい里づくりの推進母体とする。

(1) 土地管理組合の結成

未利用の農林地や空き家の維持管理は、地主一人又は個々の対応では実質困難となっており、地域全体で対応すべき時期に来ていると思う。

そのため、都市のマンション管理方式などを参考に、地主、住民を構成員とする土地管理組合を設立し、地域ぐるみで環境の維持管理を行う。

① 管理の範囲は、集落・里（自治会）を基本エリアとする。

・無論、もっと小エリアでも構わない。）

② 組合員は、エリア内の地主、住民で構成する。

- ・全員が好ましいが、最初は関心の有志のみで構わない。
- ・組合員の中から理事、理事長などを選出し、組合の運営に当たる。
- ・借家人等は賛助会員等として参加できる。

③ 専用地と共用地の区分

(ア) 現に利用している住居や田畑等は「専用地」とする。

(イ) 管理が困難となっている未利用農林地や空き家などを「共有地」とする。

- ・未利用農林地、空き家の全てでなくて良い。土地所有者が共用地として組合に委任する範囲で構わない。
- ・その場合、所有権はそのまま地主に残し、利用権のみを管理組合の共用とする。

④ サポート会社「(株)夢代理店」への委託

土地管理組合の運営及び共用地の資産運用をサポート会社に委託できるとする。

但し、サポート会社は美しい里づくり協会の承認を受けた(株)夢代理店でなければならない。

(2) 土地の維持管理と利活用—美しい里づくり

土地管理組合は、土地（専用地、共用地）の維持管理及び利活用を通じて、美しい里づくりを推進する。

① そのために必要なルール、計画などを協議し、決める。

- ・景観や環境美化に配慮した守るべきルールを決め、メンバーは環境美化に努める。
- ・共有地の利用計画を立て、実施・運用方法等を協議し決める。

(ア) 管理費は、無料とし、不良資産等の運用で賄うことを原則とする。

2. (株)夢代理店の設立

土地管理組合のサポート会社として設立する。併せて、当該エリアの夢代理店として、

未利用地や空き家の活用を運用、運営しながら地域の美しい里づくり運動の推進をサポートする。

(1) 土地管理組合のサポート会社

土地管理組合の設立を働きかけ、組合の運営及び活動を支援する。
特に、共用地（未利用地等の資産）の運用、利活用を図る。

(2) 参加方式の田園回帰を推進

① 体験型田舎暮らし等の支援活動

「共用地」の日常的な維持管理は、管理費ゼロを原則としていることから組合員みずからの地域主体の取組みとせざるを得ない。そこで、ボランティア活動等を積極的に取り入れ、都市住民との交流を進める。これが一つの業務活動となる。
その際、共用地（空家）を休憩所、宿泊施設として積極的に活用する。活用できるようにする。

② コーポラティブ方式による空き家などの資産修復・設計と建設整備

コーポラティブ方式の住宅供給と云えば、注文住宅のようなものである。
一般住宅市場のような建設、販売でなく、購入者・利用者在りきで、ユーザーの希望を聞きながら建設し販売する。今回の場合は、空き家を利用したい人、購入したい人を先に見つけ、そのユーザーの希望、予算を聞きながら空き家のリフォームを行う。
購入者、利用者は、上記の都市との交流、田舎暮らしの体験活動等を通じて募集する場合と、一般公募方式がある。
これを主導するのは、夢代理店に委託された建築家など。実際、リフォームを行うのは地元工務店であり、予算によっては建築家や工務店の指導を受けながらボランティアで、体験型イベント活動として。

(3) 夢代理店として人と人をつなぐ

地域の夢を実現する代理人として、人と人をつなぎ、企業相互、異業種間交流を進め、新たな仕事を生み出す。都市の人やノウハウ、資金を地方に還流し、新しい「しごと」を創る。そういったことを、土地管理組合のサポートと併せて進める。

3. 美しい里づくり協会

(1) 協会の設立趣旨

以上の土地管理組合の結成と夢代理店の設立により、

① 地主から地域主体の環境管理へ移行

・ 荒廃した未利用農林地や空き家の管理は、地主（土地所有者）から地域主体となる。

② 未利用農林地や空き家の利活用を市場メカニズムに乗せ、地域主体の経営管理

・ サポート会社を介在することで、未利用農林地等を市場メカニズムに乗せ得る。

そのことで、利活用する土地、山など自然に戻す土地、公共で保有する土地（保安防災地や緑地等）などの目安を立てる。

・ 勿論、これまで地主の様々な努力はあったかも知れない。しかし、その結果が放棄・荒廃状態である。すなわち利活用に値しないと判断されていることを意味する。

・ この検証がサポート会社の大きな役割である。「共用地」の運用を委託されたサポート会社は、経営上、地域の街づくり、町おこしを考えて、「共用地」なる不良資産の利活用を企画することとなる。その際、都市住民の移住、利用をはじめ都市の人材、ノウハウ、資金等を活用することを考えるはずである。また、地域の人材、企業などの連携、協力なしには実現困難のはずである。

・ これらの好循環を生むために、サポート会社「榊夢代理店」を設立する。

以上のように、地方の環境管理はもはや土地所有者に任せて置けない状況にある。行政の一部では、もはや放置できないと様々な措置を講じ始めている。こういった努力は、必要であり、ますます広がると思われるが、まずは地域の自助努力が必要である。そのため土地管理組合の設立であり、それをサポートする榊夢代理店である。

中でも夢代理店のような株式会社が、主旨に沿って設立し得るか、どうか、そこがポイントである。そこで、次のような「NPO)美しい里づくり協会」を設立し、美しい里づくり運動を支援する。すなわち里・集落単位の土地管理組合と夢代理店の活動支援を行う。

- ① 流域生活圏単位に協会を設け、流域経済圏の自立を目指す。
- ② それにふさわしいメンバーで構成する。
- ③ 協会で土地管理組合、夢代理店を認定し、社会的信用を与える。
- ④ その他、美しい里づくりを支援する。